全教	実教部ＮＥＷＳ	第１４１号 2025/12/12発行

ひっでもんにおもいでな全国学習交流集会やざ報告

第 33 回全教実習教員部全国学習交流集会は、組織の垣根を超え 10 月 12 日～13 日の 2 日間、福井県福井市で開催され、全国から 23 組織・52 名が集いました。「集いあい・語りあい・学びあう」を集会テーマに、開会行事後、常任委員による「寸劇：“実習教員の日常・モヤモヤ”」を全体で鑑賞後３つの分散会に分かれ、寸劇の感想・新しくできた制度改革の冊子②「考えていこう、みんなの困りごと『あれや これ』」について・職場の問題点や悩みについて感想や情報交換がおこなわれました。最終日の全体会は、参加者全員で「実習助手」制度改革の方向性と題し、これからの実習教員のあるべき姿について情報交換をおこないました。

寸劇：“実習教員の日常・モヤモヤ”

常任委員による寸劇が披露されました。

参加者からは、「プロのようなトーク、すばらしかったです」「ポイント、ポイントをおさえている劇だと思った」「ニアリーイコールについて、日常のモヤモヤがわりやすい寸劇でした」「日常においても実習助手の範ちゅうを超える仕事をしている人は多いなと感じた。教諭と同じもしくはそれ以上をしているにもかかわらず、法においては線引きされているということに疑問を感じた」「実習教員のあるあるでした」「とてもわかりやすく、腑に落ちる劇でした。演技力に感服です」などの感想をいただきました。

全教実教部

寸劇動画

今年度の全国学習交流集会は「寸劇の感想、冊子『その２』の確認、職場での問題」を３つの分散会にわかれて、意見交流をしました。

分散会①　参加者 19 名

寸劇の感想として、私たちの状況をよく掴めている、学校の「あるある」が表現できていたと、概ね好評でした。討論では、現状の問題点として「教諭の空洞化」が進み、定期テストや入試の監督・部活動の主顧問を受けざるをえない、２級格付けに時間がかかることや任用試験に不合格が出るようになったと報告があり、職務内容や待遇についての意見が多くありました。制度改

革の方向性について、若手には「教諭になりたくはない」という意見が多いこと、待遇改善と教諭一元化は切り離して考えるべきなど意見が出てきました。また、OG からは「目の前の生徒のために私たちは何をすべきかを考えている、生徒のためと思えば辛い目にあっても頑張れる」と自身の経験から貴重なアドバイスをもらいました。

分散会② 参加者 11 名

寸劇の感想として、組合に入らなければこの実習教員の問題に気付くこともなかったので「組合にはいってよかった」「寸劇の内容は納得できるものが多かった」「劇のようなことが実際に起こっている。これが私たちの毎日です」と反響がありました。「仕事をしていて、不安なところは、どこで何をやらされるか分からないので、転勤希望もだしづらい」「差別的な態度をとられることがある」「ある時は教員の仲間、ある時は違うといわれ立場が不安定に感じる」など実体験をふまえた報告がありました。一元化について「今まで、ほとんど教諭と同じ仕事をしてきた。運動が縮小しないようにする必要ある」「スキルが保障される一元化にしてほしい」「生徒と関わっているので、教員の位置づけにしてほしい」など、要望や意見がだされました。

分散会③ 参加者 14 名

「今回初めて教諭一元化という言葉を知り勉強になった」「教育 DX を担当しているが職務範囲を超えているように感じている」「兼務が多様過ぎて自分の専門が言えない」等、寸劇の内容を基に様々な感想・問題について発言がありました。制度改革に関しては「助手」のままがいいという人もいるのでは？と疑問視する声もありましたが、「普通科実習教員も教員の中に入りたい」「まずは教員一元化を進めてほしい」「名称が『実習教員』になってほしい」など“教員に入る”ことに肯定的な意見が多数を占め、法改正に向けて実習教員の仕事の認知度向上が重要であるとの視点が示されました。教育のデジタル化については、「電気が止まっても紙とペンで教育を止めるなと教えられた」という発言に共感し「リアルは大事、100%デジタルはだめ」「ＤＸは教育に合わない」と満場一致の見解に。また、OB からは若手実習教員に向けて「学び、そしてスキルをあげることが自分を守ることになるのでぜひ頑張ってほしい」とエールが送られ、参加者全員が学びあえる場となりました。

全体会 「実習助手」制度改革の方向性 参加者 49 名

２日目の全体会では、各分散会報告、制度改革検討委員会より「実習助手」制度改革の方向性について意見交換をおこないました。

参加者からは「教育 DX については、寝耳に水であった」「実習教員の職がなくなっていくかも知れないという問題があることに衝撃を受けました」「呼称問題、制度改革、DX 推進等様々な問題について勉強になりました」「呼称について、職名を法律で変えてもらう必要性があるのでは」「共通の想いを知ることは、大切だということを再確認しました」「実習教員の認知度が低いため、実習教員の業務を大いに発信することが必要」「特に給特法、学校教育法などの法改正が必要」との感想をいただきました。

コーディネーターより

皆様のおかげで無事に全教実習教員部全国学習交流集会 in 福井を終えることが出来ました。私の勤務地と同じ北陸での開催、また福井高の協力で全国から多くの実習教員がこの福井の地に集うことができました。例年の学習交流集会と違い「実習助手」制度改革の方向性を参加者全員で考えることを主とした実のある学習交流集会となりました。元常任委員 OB・OG の皆様の参加もあり今後の実習教員部の運動を理解していただけたことと思いました。これからも全教実習教員部へのご協力よろしくお願いします。

参加者の感想

- 教育 DX、GIGA スクール事業の裏側で実習教員の職がなくなっていくかも知れないという問題があることに衝撃を受けました。
- 「実習助手」が法令上教員として扱うかどうかあやしい立ち位置だったのを初めて知ることができた。
- 今のままでは私たちは不安定な立場、都合のいい立場のまま、職が失われてしまう可能性があると感じた。
- 活発な意見、情報交換が今までにないほど行われ、他県事情にふれる良い会でした。また、整理し、自県運動に反映していきたいと思います。

このようなさまざまな感想をいただきました。

次回開催予定について

来年度はとりくんでいる「実習助手」制度改革について意見集約し、共通理解を深め、全国のみなさんと討論し確認する年にしたいと考えております。

第 33 回全教実習教員部　全国学習交流集会　集会アピール

1999 年度「理科実験と実習教員問題の解決のためにー『実習助手』制度改革に向けてー最終報告」2004 年度版改訂報告に基づいて、現在の実習教員部運動が進められてきました。

今まで我々は、その方針に基づき、現在まで文部科学省要請を重ねてきました。ただ、実習教員の制度改革には、最終報告以前よりさまざまな意見があり、一つの方向に進もうというものではありませんでした。報告当時からそれに気づいていたものの、方向性が間違っているものではないこともあり、現在まで進んできているのが今の状況です。

時代の流れ、情勢変化を踏まえ、現在の全教実習教員部常任委員会がこのままでは我々の制度改革が進まない、文部科学省要請の進捗具合等も鑑みて、今まで目を背けていた部分にメスを入れるため、2023 年度全教実習教員部定期総会において常任委員会の諮問機関として制度改革検討委員会を立ち上げることに至りました。

この立ち上げに至った制度改革検討委員会では、1 年目（2024 年度）全教実習教員部常任委員会の意向を受け、現在、我々が求めるべき制度改革とは何か、過去（先輩たちが築いて導いてくれていた運動）と未来（今の若い世代の実習教員が求めるもの）の融合をおこなうべく、前に進むための道標となる新たな波をつくるとりくみをしました。

ところが、2024 年度、文部科学省要請行動において、実習教員は完璧な教員ではないことを示唆する「ニアリーイコール（≒）」であって、その時々で良いように使われる存在であることが明らかにされました。その裏で主務教諭という職を新たに設け、給与区分や身分格差をつけ、実習教員をさらに都合よく使い勝手のよい職種に押しとどめ、職務職階制の大きな渦に巻き込もうとしています。

現在の教育改変の速さを考えると、制度改革の運動をより加速されていく必要があることを、2024 年度全教実習教員部定期総会において示したところであります。

制度改革検討委員会と常任委員会では、早急に大きな波（実習教員の新たな制度改革の方向性）をつくり、実習教員が教員として働きつづけることができるよう推進して行きます。みなさん、集いあい・語りあい・学びあいましょう。

全教実習教員部　制度改革検討委員会・常任委員会